

北鹿の学び舎から

2021-2022

OB、在校生、学校の今 ⑥

段取りとコミュニケーション

今回ご紹介する当校のOBは、株式会社伊藤羽州建設（大館市字水門前）の高橋達哉さんです。高橋さんは平成29年3月に当校の専門課程住居環境科を卒業後、同社の建築部へ入社し、公共や民間の建築物の施工管理業務に携わっています。入社してからはシヨッピングセンターや空港

の改修工事など20弱の現場を経験し、今では現場の責任者として活躍しています。そんな高橋さんに現在の仕事とプライベートについて、そして今後の目標について伺いました。

就職して5年弱となった現在、今まで最も印象的だった仕事について聞いてみたところ、初めて一人で現場を任された時の事を話してくれました。

「入社3年目、民間企業の敷地内に鉄骨造の倉庫を建設する現場でした。平面はおおよそ6m×8mの大きさでしたが、過去に経験したとの現場よりも大きく感じました。現場管理、予算管理及び安全管理として資材の発注や下請け会社との調整・交渉など全ての業務を一人で行わなければ

株式会社伊藤羽州建設

高橋 達哉さん

秋田職能短大 平成29年3月卒

た。

ばなりません。しかもこの工事は民間企業の敷地内に現場があるため、通常業務に支障をきたす事が無いよう細心の注意を払う必要があります。緊張の連続で憂鬱な日々を送ることになると思っていました。必死で日々を過ごして行くうちに自分が就いた仕事の本当の面白さが分かり始めました。当然の事ながら今までのどの現場よりもハードだった事は間違いありません。しかし一人で現場を任せられるという事が無ければ見えなかった事、知らなかった事の多さ。そしてその殆どは綿密な計画に基づいた「段取り」と周囲の人との良好なコミュニケーションによって成り立っているという事に気付かされた。」と話してくれました。

その後数回にわたり一人で現場を任せられる事となった高橋さんはお施主様へはもちろんですが周囲の方、特に下請けの職人さんへの気遣いを今まで以上に考えるようになり、自分たちの仕事は彼らによって支えられている。そう考えるようになったそうです。

さらなるステップアップを目指している高橋さんに今後の目標を伺いました。

「会社や自分にとっても重要な資格となる一級施工管理技士に今年、一発合格する事です。資格を取得した後には、今まで以上の大きな現場を管理してみたいです。そして、かつて先輩にそうしていただいたように、自分も上手に部下を動かし、人材を育てていきたいですね。新入社員だった頃、手際良く仕事をこなす先輩の横で補助をしながらメモを取り、必死に喰らい付いていた数年前の自分を思い出しました。」と話してくれ



ました。

仕事だけではなくプライベートでも充実した日々を送っているという高橋さんに現在の趣味について聞きました。「今はゴルフが面白いですね。あらゆる状況を総合的に判断しながら戦略を立てプレイングを進める事が醍醐味です。風の向きや強さ、天候によって自分自身やゴルフ場のコンディションは変わりますから、その時に最善と思われる

た。

また、入社した頃から乗り始めた愛車に対する想いは購入当初よりもさらに増しており、当面乗り換える予定はないそうです。現在は一人暮らしをしているため炊事や洗濯なども行っており、最近はお料理の楽しさに気づき、夕食の作り置きなどもしているそうです。

秋田職業能力開発短期大学校には、高橋さんが卒業研究で制作した木造の廃棄物倉庫があります。全ての部材は秋田杉を使用し、仕口部分に金物を使用しない伝統的構法によるものです。制作してから5年もの月日が流れましたが、目立った破損や腐食もなく今でも風雪に耐え立派に機能しています。これからまた多くの建築物に携わることになるでしょうが、いつまでも人々の暮らしに寄り添うような仕事を心がけ、感謝の気持ちを忘れず、真っ直ぐ育つ秋田杉のように日々成長し、活躍して欲しいと願っています。

秋田職業能力開発短期大学校

住居環境科 小林 健